

令和5年度の研究に向かって

北本中学校区三校校長

<委嘱内容>

令和5・6・7年度北本市教育委員会委嘱

◇「令和の日本型学校教育」の構築を目指した教育実践（北本市小中一貫教育に関する研

<委嘱研究にあたっての研究の方向性>

北本市教育委員会では、全国に先駆けて小中一貫教育（学校4・3・2制）に取り組み4中学校区のそれぞれの学校に研究委嘱を行い、学区内小学校2校と連携しながら3校で義務教育9年間を通した児童生徒の育成を行ってきた。これまでの委嘱研究で小学校と中学校の連携が推進され、児童生徒だけでなく教職員も含めての様々な交流促進から、一定の成果が得られた。

令和2年度からは、これまでの研究成果を活かしながらも校種や各校の実態に応じた研究の推進がより必要であると考え、研究のメインテーマを3校で共有し、各校で研究の焦点化を図るためにサブテーマを設定し、課題解決を図りながら研究を推進してきた。研究のメインテーマについては、全面実施となった現行の学習指導要領で強調されている「キャリア教育の推進」とし、社会的・職業的自立に向けて大切な能力として「基礎的・汎用的能力」の育成が求められている。基礎的・汎用的能力については、「人間関係育成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力で整理されており、各学校や地域の課題に応じて学習指導要領を踏まえて育成していくことが期待されている。

令和4年11月には、小中の校種から指導者を招聘してのパネルディスカッション、ICT機器を活用したハイブリッド形式など、新たなスタイルで研究発表を行ったところである。

しかしながら、令和2年度からの3年間の研究推進期間はコロナ禍であり、児童生徒、教職員の相互交流や感染リスクの高い教育活動においては制限せざるを得ない時期もあった。そのため、児童生徒、教職員の健康安全を最優先し、感染対策を講じながらの研究推進であったが、キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力のうち、各校で課題となっている能力を重点的に育成していくことが、「これからの時代に求められる資質・能力の育成」に不可欠であるという実感も得ることができた。

そこで、これまでの研究成果を継承し、「キャリア教育の推進」をメインテーマに各校で研究内容を焦点化し、義務教育9年間で、こんな子どもを育てたいという「目指す児童生徒像」を共有し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指しながら、北本中学校区版の「令和の日本型学校教育」の推進を目指していく。

<研究の主な方策>

- ◇3校校長会⇒毎月1回、研究の指針・修正・リーダーシップ
- ◇3校教頭会・三主会（主幹教諭）⇒研究推進の実務担当者会
- ◇学校4・3・2制推進会議⇒年2回、各校校長・教頭・主幹・研究主任
- ◇体験を重視した児童生徒の交流（体験入学・部活動体験・あいさつ運動 等）
- ◇北本中学校区課題解決のためのサミット開催（児童会・生徒会）
- ◇教職員の交流⇒人事交流の推進、兼務発令を活用した小6・中1への授業支援、出前授業、合同研修会、授業相互参観 等

以下、「令和の日本型学校教育」の捉え方、北本中学校区における研究構想図を示す

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

R3.1.26 中央教育審議会 答申

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力
○社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代の到来
○Covid19 の感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代

学習指導要領の実施
基盤的ツール ICT 活用

子供たちに求められる資質・能力

◎文章の意味を正確に理解する読解力◎自分の頭で考えて表現する力◎知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力◎他者への思いやり◎対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力◎困難を乗り越え成し遂げる力 等 (H28 答申)

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるようにすること

◇令和の日本型学校教育の姿（2020年代を通じて実現すべき）

子供の学び ⇒ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている

- 個別最適な学び ○協働的な学び
- 主体的・対話的で深い学び ○ICTの活用

教職員の姿 ⇒ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たす

- 教師の資質向上 ○多様な人材の確保
- 家庭・地域との連携 ○学校における働き方改革

子供の学びや教職員を支える環境 ⇒ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている

- ICT環境の整備 ○学校施設の整備
- 少人数によるきめ細かな指導体制

◇子供の学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。



子供の資質・能力の育成

個別最適な学び【学習者視点】 = 個に応じた指導（指導側）

◇子供が自己調整をしながら学習を進める◇

◎指導の個別化：一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める。

◎学習の個性化：異なる目標に向けて、学習を深め、広げる。（子供の興味・関心、キャリア形成に応じて）

協働的な学び

異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す。（子供のよい点や可能性を生かす、多様な他者と協働する）

北本中学校区 全体テーマ

『児童生徒の「生きる力」へと結び付く「基礎的・汎用的能力」の育成』

＜3校の研究に対する基本的な考え方＞

- 9年間で「こんな子どもを育てたい」という児童生徒像を共有する。
⇒ **【笑顔と優しさにあふれ、自ら学びに向かう児童生徒】**
- キャリア教育の推進という研究のメインテーマを共有する。その上で、各校の課題解決に迫るため各校でサブタイトルと研究組織を設定して研究を推進する。
- 感染症対策を講じながら、児童生徒及び教職員の交流活動を継続する。

北本中学校

サブタイトル

支持的風土を醸成し、個別最適な
学び、協働的な学びの実践を通して

研究内容

基礎的・汎用的能力の育成

(4つの能力)

- ◇北本中学校区3校校長会議（毎月1回・各校 校長）
- ◇学校4・3・2制推進会議（各校 校長・教頭・主幹教諭）
- ◇3主会（毎月1回程度 各校 主幹教諭）

教職員の交流：3校合同研修会

3校の研究テーマに関わる内容

- 合同研修会の開催（夏季休業中）
- 兼務発令教員の活用、相互授業参観

児童生徒の交流

- 合同サミット ○あいさつ運動
- 部活動体験 ○体験入学
- バスケ・陸上指導 歌声交流

南小学校

豊かな言語活動を重視した学級経営
(学級づくり)の推進を通して

研究内容

基礎的・汎用的能力の育成

(4つの能力)

西小学校

体験的・問題解決的学習を
生かした道徳教育の推進

研究内容

基礎的・汎用的能力の育成

(4つの能力)

<基礎的・汎用的能力とは>

キャリア教育の推進については、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）によれば、社会的・職業的自立に向けて大切な能力として「基礎的・汎用的能力」の育成が強調され、「人間関係育成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力で整理されており、各学校や地域の課題に応じて新たな学習指導要領を踏まえて育成されることが期待されている。

◇ 人間関係育成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成できる能力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等があげられる。

◇ 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動があげられる。

◇ 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

具体的な様子として情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等があげられる。

◇ キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等があげられる。

【北本中学校区の目指す児童生徒像】

○笑顔と優しさにあふれ、自ら学びに向かう児童生徒

研究を推進するにあたり、キャリア教育に係るメインテーマを3校で共有し、各学校の課題解決を図るためにサブタイトル及び研究組織を3校独自に定めることにした。さらに、9年間で「こんな子どもを育てたい」という思いを明らかにするために、令和3年度から「目指す児童生徒像」を共有している。